

特別報告 兵庫の取り組み 報告者 兵庫の地域医療を守る会 今西清

はじめに 安倍首相が公立病院再編統合と病床削減の旗振り役

問われているのは誰のための医療か 医療のありかた

政府財界のねらい 労働者の労働力再生産費の効率化 医療の成長産業化

高齢非労働者の医療費用最小限化

公立病院の赤字 もうける病院に変える 効率性・生産性の悪い病院の廃止

1. 兵庫における公立病院統廃合の経過

2007年

但馬圏域で公立病院再編。豊岡病院431床と八鹿病院413床に医師集約し急性期医療機能担当、和田山医療センター、日高医療センターは100床程度で特色ある医療機能維持、出石医療センター、梁瀬医療センター、公立村岡病院は50床規模で慢性期医療機能担当。2010年ドクターヘリ、ドクターカー運行。

2007年12月24日 総務省公立病院改革ガイドライン

2011年

(独)明石市立市民病院357床←明石市立市民病院398床

2013年

(独)神戸市立医療センター中央市民病院700床

←(独)神戸市立医療センター中央市民病院912床

(企)北播磨総合医療センター450床 ← 三木市民病院323床、小野市民病院220床

2015年

3月31日 総務省新公立病院改革ガイドライン

県立尼崎総合医療センター730床 ← 県立尼崎病院500床、県立塚口病院400床

2016年

(独)加古川中央市民医療センター600床←加古川西市民病院405床、加古川東市民病院198床

朝来医療センター150~180床

← 公立朝来梁瀬医療センター50床、朝来和田山医療センター139床

神戸ポートアイランドに移転 県立こども病院

2017年 兵庫県地域医療構想

日高医療センター30床 ← 日高医療センター99床

5月起工県立統合新病院320床 ← 県立柏原病院303床、柏原赤十字病院167床

県と西宮市の検討委員会が統合再編報告書 県立西宮病院400と市立西宮中央市民病院257床

指定管理により民間病院との統合方針を市長が出す 市立川西病院250床

2018年

兵庫県保健医療計画

公的医療機関2025プラン

2019年

市立川西病院が協和会に指定管理

県立丹波医療センター320床 ← 県立柏原病院303床、柏原赤十字病院167床

市立伊丹病院400床と近畿中央病院400床 600床規模へ統合再編の検討委員会報告

済生会兵庫県病院と三田市民病院の連携協議開始

9月26日厚労省が再編検証要請 兵庫では15病院

兵庫県立リハビリテーション中央、国家公務員共済連六甲、高砂市民、明石市立市民、多可赤十字、公立豊岡病院組合立豊岡病院出石医療センター、公立香住、公立豊岡組合立豊岡病院日高医療センター、公立村岡、国立病院機構兵庫中央、兵庫県立姫路循環器病センター、相生市民、たつの市民、加東市民、柏原赤十字

2, ここから見えてくる政府のねらい

地域医療構想の構造と戦略 2025年に向けて

療養病床の全廃 介護施設化

急性期病床の大幅減 在宅医療への転換 医療と介護の一体改革

国保の都道府県単位化との連動

県知事権限強化 調整型の医療圏会議から変化

先行する公立病院統合再編 財政措置 中小規模病院への集中攻撃 民間病院への展開

高度化、効率化 その先は 公的医療保険制度見直し 外資の圧力

新専門医研修制度

医療産業 利権構造

3, 対抗する市民

(1) どのように立ち上がったのか

病院労働者から

2007年前後 自治労連 兵庫自治労連と自治労兵庫県本部の共同も
市民、利用者

2011年以降 各地で市民運動組織

地域医療をまもる但馬の会

加古川の二つの病院の存続と充実を求める会

JCHO 神戸中央病院を守る会

川西の医療と介護を良くする会

姫路の医療と介護を良くする会

済生会兵庫県病院の存続と充実を求める会

三田市民病院を守る会

市立伊丹病院と近畿中央病院の存続と充実を求める会

これらをネットワークする兵庫の地域医療を守る会

医療生協、地域社保協、新婦人地域支部、年金者組合地域支部、議員、個人など

(2) どんな活動を展開しているのか 別に写真で紹介ポイント

学習会 キーパーソンの立ち上がり 小規模学習会から規模拡大へ

署名 地域の有権者15% 次は地域の過半数へ 自治会ぐるみ

10000筆(伊丹・北区) 15000筆(三田) 20000筆(川西)

35000筆(加古川) 85000筆(尼崎)

宣伝 数人からビラ配布 全戸配布 駅頭やスーパー前でのスタンディング

自治体交渉 ことあるごとに 機敏な申し入れ 懇談 議員要請

住民集会 10人規模 50人規模 → 300人、500人規模へ

4, どのような成果があるのか

一方的統廃合を許さない まだ統廃合阻止は実現出来ていないが

市民説明会 数回 10数回まで

後医療 病院施設を残し活用 敷地を活用民間病院誘致 など

通院支援 新病院へのアクセス確保 など

主権者としての成長 運動の担い手 ネットワーク

5, 新たな局面

9月26日厚労省による424病院指定 兵庫県で15病院の再編指定

兵庫の地域医療をまもる会の知事申し入れ

地域での議論や各病院の計画策定の経過を無視し、全国一律の基準で機械的にふるいにかけてもので、それぞれの地域医療に与える影響も住民ニーズも考慮されていません。

個別の病院計画の具体的にどこに問題があり、どのように対応するべきなのか明らかにしていませんが、①2020年3月までに、「2025年において達成すべき医療機能の再編・病床数等の適正化」の対応方針の見直しを行い、②2020年秋ごろまでに医療機関の再編統合をとまなう見直しを行うことを求めています。この場合に、統合再編には機能分化や連携も含めるとしています。

公立病院・公的病院をテコにして、病床削減計画策定と病院再編統合を促進するために、政府は実効性のある新たな県知事の権限のあり方を2020年度中に検討するとしています。公立病院・公的医療機関と並行して、民間医療機関についても対応方針の策定を求めています。

財政的には地域医療介護総合確保基金の配分における大幅なメリハリをつけるとともに、消費税財源を活用した病床のダウンサイジング支援の追加的方策を講ずるとしています。

こうした知事権限強化や財政措置は今回政府により指定された15病院だけではなく、連携や再編統合を含めて検討がおこなわれている、県内の全ての公立病院・公的医療機関に大きな影響を与えるものです。そこで、以下の事を申し入れるものです。

①地域の実態や議論の経過を無視した、公立病院、公的医療機関の再編に向けた再検討の政府要請に県知事として反対の姿勢を明確にすること。

②県知事として政府の情報収集を迅速、的確におこない、県内の医療機関、自治体、県民に速やかに情報提供するとともに、県民説明会を開催すること。

③公立病院、公的医療機関の統合再編推進のための知事権限付与に反対し、病院改革は自治体と各病

院の自主性を保障し、住民の理解と納得のもとに進めること。

- ④政府は地域医療構想実現のために、民間医療機関についても対応方針の策定を求めるとしているが、各医療機関の自主的経営方針にもとづくものとする。
- ⑤病院統合再編の促進のための財政措置を強化するのではなく、地域にとって不可欠な公立病院、公的医療機関の存続充実のための財政支援を行うこと。

6、公立病院再編の本質、兵庫から見えてきたもの

安倍政府による医療の効率化

生産性 公正、平等医療の否定

収益性 公立病院赤字罪悪視

身近で総合的医療の提供の否定

成長産業化

高度医療化

公的医療保険制度解体 保険外医療の展開

外資圧力 どうなる日米 FTA

医療格差

貧困者 非正規 高齢者排除

公立病院をテコに 全ての医療機関の再編へ

地域医療構想 病床削減

医療圏破壊

200 床未満の病院を一掃全廃

500 床程度の病院への再編

官僚的強権的手法

様々な規制緩和

医師不足

新専門医研修制度

財政措置

公立病院の統合再編への地方交付税措置

基金 消費税増税の利用

川西病院の現状から見る

①川西病院の指定管理による民営化
医療機能後退

2019 年 4 月から協和会運営

看護師大量退職 4 階北病棟閉鎖

看護師 194 人 (2018 年度)

→ 134 人 (2019 年 6 月)

入院患者 191 人→133 人

ベッド稼働率 77%→57%

分娩件数

月平均 15 件 (2015 年度)

→ 月平均 7 件 (2019 年度)

民営化の失敗

「市立だから赤字」「民営化すれば黒字になる」の説明は虚偽だった

②市立川西病院と協立病院の統合再編

新病院 400 床になるが

阪大系列医師団と地方大学混在医師

統合で医師集団はどうなる不明

おわりに 今後の課題

リーダーの育成 キーパーソンへの支援 市民活動の自主的発展 運動論・組織論の確立

自治体での運動 病院職員労働組合、市民活動、議会論戦の連携

市民と野党の共闘 政策課題に地域医療を取りあげる

全国的運動の展開 地方への情報提供 政府への統一要求 など

兵庫の地域医療を守る 取り組み

2019年11月23日
兵庫の地域医療を守る会
今西 清

兵庫但馬 日高病院守れ住民集会



日高病院残せ住民集会



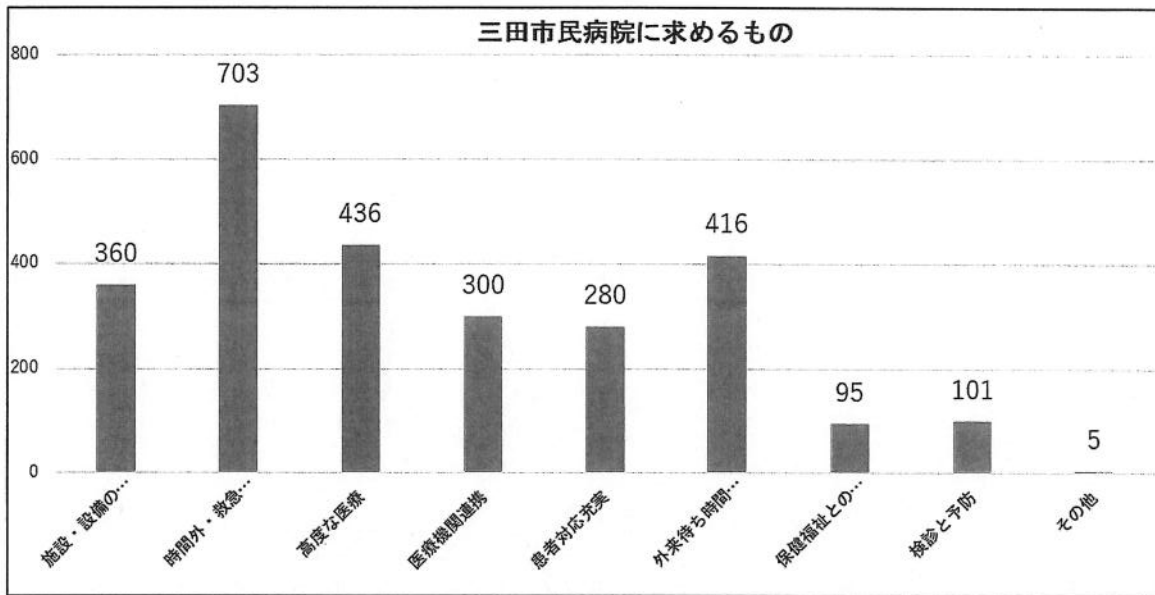
3

三田駅前市民病院アンケート



4

三田の医療と介護をよくする会 市民アンケートに1000人



5

5日午後、5200筆を三田市長に届けました。1月24日提出分と合わせ10,421筆が寄せられました。



6

三田病院前早朝宣伝



7

三田市長選挙 市民が市民病院問題を大争点に押し上げた



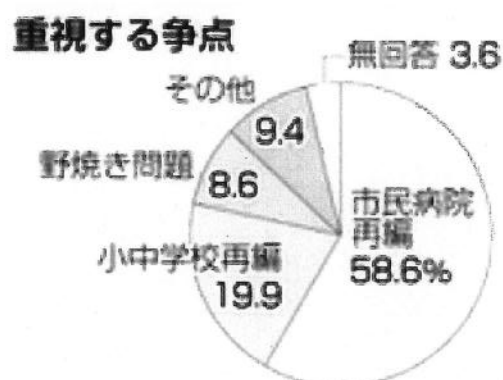
8

三田市長選挙出口調査

2019/7/24 05:30 神戸新聞NEXT

三田市長選の出口調査 市民の6割が病院問題に関心

病院再編に関しては、森氏と元加西市長の中川暢三氏（63）が、神戸市北区にある病院と統合し、規模の拡大を主張。元市議の長谷川美樹氏（68）＝共産推薦＝は現状の規模や場所での存続を求めた。他の争点は「小中学校の再編」が2割、「野焼き問題の解決」が1割だった。



9

済生会兵庫県病院の存続を求める会 アンケート 1000枚配布して

済生会兵庫県病院と地域医療についてのアンケート

済生会兵庫県病院の存続・充実を求める会 2018年1月から2018年3月迄実施 回答者数510名

地域の
皆様 **510名**の
声

済生会兵庫県病院に求めるものはなんですか？

済生会兵庫県病院で、もっと充実して欲しい「診療科」はなんですか？

10

済生会兵庫県病院の住民署名



11

神戸市北区での学習会



伊丹での学習会 市立伊丹病院、近畿中央病院



川西病院を守る住民署名 川西病院労組を事務局として

**市立川西病院の今後について
みなさまの「署名」を集めています**

川西市北部に総合病院の存続を求める会
川西市〒681-2211 市立川西病院敷地内事務局
TEL: F4372-797-0233

川西市が病院事業新経営改革プラン(案)を作成して、
病院の経営形態や立地場所の変更を提案しています。

経営形態が変更されれば、
救急や小児、周産期分野などの不採算医療が損なわれる可能性や、
病院の場所が変更されれば、
川西市北部周辺で地域医療の提供ができなくなる恐れがあります。

経営形態の変更

救急医療 小児医療 周産期医療

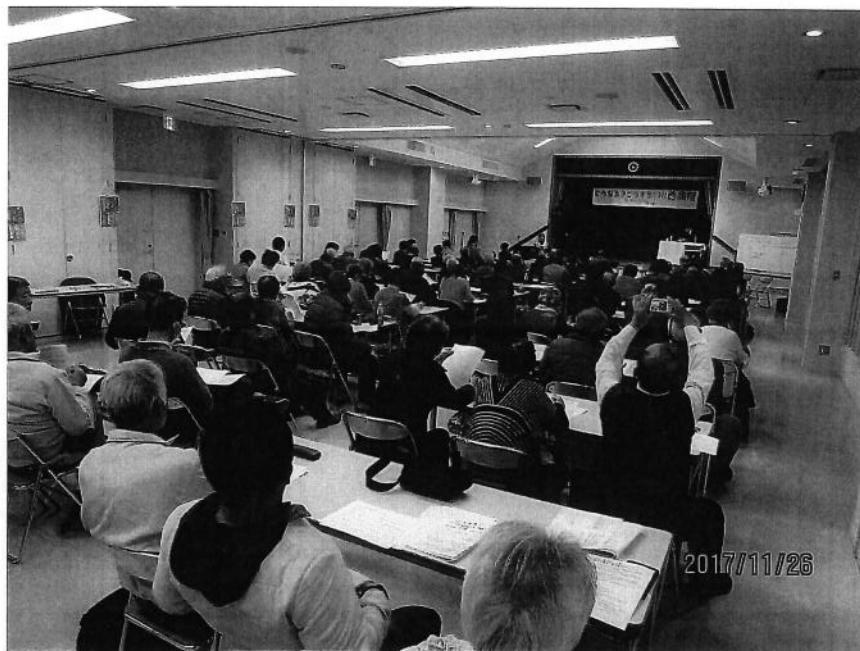
病院の場所の変更

川西市北部 川西市南部

市立川西病院

「川西市北部に総合病院の存続を求める会」は
市立川西病院の北部での存続を求めます。
4月20日まで皆様の署名を集めています。

川西 市民と野党共闘で集会



15

川西市東谷公民館 地域集会



16

川西市役所前宣伝

